



介護事業者向け

# 介護テクノロジー 導入プロセス事例集

---

介護テクノロジー導入モデル事業  
取組結果中間報告

2025年3月

群馬県健康福祉部福祉局

地域福祉課福祉人材確保対策室



1. はじめに	
2. 介護テクノロジー導入のプロセス	
3. 介護テクノロジー導入のポイント	
4. 導入事例	
事例1 社会福祉法人マグノリアニセン【見守り】【排泄支援】【介護業務支援】	
・概要	8
・導入プロセス詳細	10
事例2 社会福祉法人邦知会【見守り】【介護業務支援】	
・概要	14
・導入プロセス詳細	16
事例3 社会福祉法人ほたか会【見守り】【介護業務支援】	
・概要	20
・導入プロセス詳細	22
5. 別添	
・業務改善計画書(参考例)	
・進捗管理シート(参考例)	

# 1. はじめに



## 本冊子の構成

本冊子は、令和6年度介護テクノロジー導入モデル事業において、機器等を導入した事業者の、導入プロセスや効果を紹介しています。

※中間報告では導入プロセスのみ

これから初めて介護テクノロジーを導入する事業者はもちろん、既に導入している施設・事業所における追加検討の参考に活用いただくことを想定しています。

## 本冊子の使い方

本冊子は、どのページから読んでいただいてもかまいません。以下のような時に目を通してみてください。

介護ロボットの導入はどんな手順で進めたらいいのかな？

→P4 へ

介護ロボットの導入の際にどんなことを意識したらよいか？

→P5 へ



導入の進め方が分からないけれど、モデル事業所はどう対応していたかな？

→P8 へ

導入計画や導入スケジュールのフォーマットはある？

→別添\_業務改善計画書  
(参考例) へ

## モデル事業者への質問・見学の連絡先

モデル事業者に質問・見学を希望する場合や、モデル事業者の作成した業務改善計画書、進捗管理シートの提供を希望する場合は以下の連絡先にご連絡ください。

**公益財団法人 介護労働安定センター 群馬支部**

TEL:027-235-3013

E-mail : gunma@kaigo-center.or.jp

## 2.介護テクノロジー導入のプロセス



本事業でモデル事業者は以下のプロセスで機器を導入しています。本事例集ではそれぞれの事業者が、各プロセスで具体的な取組内容を掲載します。

※中間報告では①～③まで掲載



# 3. 介護テクノロジー導入のポイント



## 改善活動の準備をしよう

### 介護テクノロジー導入・評価に必要な委員会の設置

施設・事業所において、介護ロボット・ICT 機器の導入検討に関する委員会（以下、委員会と呼ぶ）を作しましょう。

#### ポイント1

トップ層による  
介護テクノロジー  
導入宣言

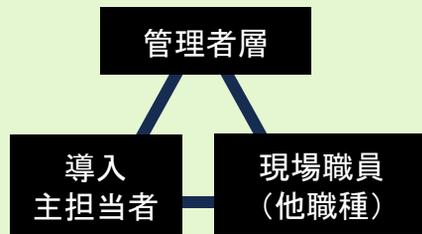


今後も安心安全  
な介護を提供す  
るために、介護  
テクノロジーの  
導入検討を始め  
ます！



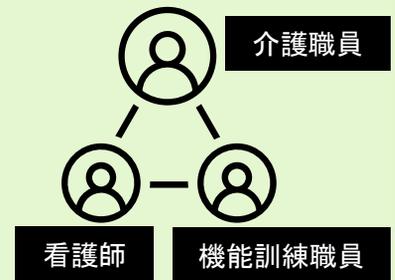
#### ポイント2

管理者層と現場職  
員を含めて組織



#### ポイント3

他職種を含む



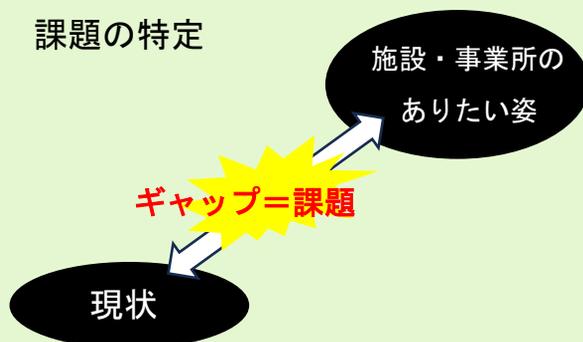
## 現場の課題を見える化しよう

### ケアの改善に向けた課題の特定

委員会において、施設・事業所の現状の課題を抽出しましょう。

#### ポイント1

課題の特定



#### ポイント2

現場職員の声を聞いて、課題の見える化をする

- ・ワークショップ、職員アンケートヒアリングの実施等
- ・コンサルタント等専門家への相談も有効です

⚠ 介護ロボット・ICT 機器の導入を前提にしないこと！

# 3.介護テクノロジー導入のポイント



## 実行計画を立てよう①

### 介護テクノロジーの選定(類似機器調査)、機器導入環境の検討

課題と目標が定まったら、テクノロジーの導入が有効な課題については、導入する介護テクノロジーを選定しましょう。このとき、Wi-Fiや電源などの機器を導入するために必要な設備環境も検討を忘れずに。

#### ポイント1

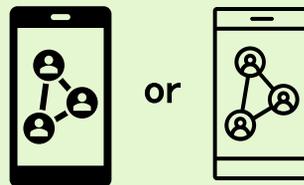
展示会・セミナーへの参加



県のセミナーの様子

#### ポイント2

複数機器の試用



A

B

#### ポイント3

設備環境の確認

- Wi-Fi環境は？
- 電源は？
- 置き場所は？
- 機器同士の連携は？

### 評価方法、評価指標の設定

どのような効果が出れば、介護テクノロジーの導入が有効と言えるか、客観的な判断ができるよう、評価指標を設定しましょう。

#### 評価指標(例)

利用者向け	利用者の満足度等調査
職員向け	介護職員の1月当たりの総業務時間及び超過勤務時間調査
	年次有給休暇の取得状況調査
	介護職員の心理的負担等調査
	機器の導入等による業務時間調査(直接介護、間接業務、休憩等)

#### ポイント

介護テクノロジーの導入効果を測定するため、導入前後で評価し、比較しましょう。





## 現場から始まる、介護の改革。

### 事業者概要

法人名：社会福祉法人マグノリアニセン  
主たる施設所在地：高崎市



施設・事業所名	サービス種別	利用者数	従業員数
特別養護老人ホームシエステさとの花	介護老人福祉施設 (短期入所生活介護)	50 (10)	40
特別養護老人ホームシエステさとの花別邸陽、紫	地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	それぞれ 20	それぞれ 14
ケアサポートセンター さとの花	小規模多機能型居宅介護	25	12
グループホームさとの花	認知症対応型共同生活介護	9	8

### 介護テクノロジー導入のきっかけ

地域の要望に応じて尽力してきた法人の事業展開が一段落し、介護ICT機器導入を検討する時間ができたところでした。

介護ICT機器導入により介護現場の生産性を向上することはもちろん、働くスタッフが自信と誇りを持って働くことができる魅力ある職場づくりをしたいと考え、省力化すべきことは省力化し、充実すべきことは充実し、最終的にはサービスの質の向上につなげたいと思います。



今井施設長

### 目標と課題

#### 【目標】職員の負担軽減と個別ケアの質の向上

#### 【課題】

- ・職員の身体的・心理的負担が大きい
- ・個別ケア充実・事故原因分析
- ・記録業務に要する時間が長い
- ・文書の量が多い
- ・記録が不正確・不十分
- ・事業所内の情報共有が非効率



## 導入機器等



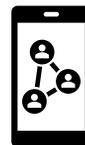
### 【介護老人福祉施設】

導入機器の種別	導入機器（製品名/メーカー）
見守りセンサー	眠リスキャンeyeカメラ/パラマウントベッド 眠リスキャン/パラマウントベッド
インカム	WFDI-TC3A/TB-eye
排泄予測支援機器	DFree Professional/Dfree
自動体位交換マットレス	こちあ利楽flow /パラマウントベッド



### 【小規模多機能型居宅介護/認知症対応型共同生活介護】

導入機器の種別	導入予定機器（製品名/メーカー）
介護ソフト	クイックケア/ファティマ
タブレット端末	iPAD/Apple



## 取組のポイント

### 身体的心的負担を軽減し生産性を高めケアの質を向上！

- ・ 見守りシステムを中心に課題解決に必要なテクノロジーを連動させ、より効果的効率的なシステムを構築。
- ・ 事業所により課題も異なり、活用したいテクノロジーも異なるため機器選定は現場スタッフに任せた。
- ・ 介護テクノロジーをフル活用しスタッフの負担を軽減し、働きやすい魅力ある職場を実現することでケアの質が向上。



委員会打合せの様子

## 効果

現在効果検証中のため、最終報告時に掲載します。



## 改善活動の準備をしよう

### 介護テクノロジー導入・評価に必要な会議体の設置

#### 法人全体で生産性向上推進委員会・事業所毎に分科会を設置

##### 【実施したこと】

- ・ 経営戦略会議で介護テクノロジー導入の意向を各事業所責任者に確認。
- ・ 役職者勉強会、職員研修会で全スタッフに施設長から導入宣言及び改善計画を説明。
- ・ 推進委員会を設置し各事業所の責任者が参画。
- ・ 各事業所毎に分科会を設置し現場スタッフの声から課題解決のために必要な機器を選定。

【メンバー】 推進委員会：施設長・各事業所責任者（課長・主任）・事務（課長・主任）  
分科会：課長・主任・リーダー（相談員・介護・看護）

【開催頻度】推進委員会・分科会 各月1回

## 現場の課題を見える化しよう

### ケアの改善に向けた課題の特定

#### 【課題の特定のために実施したこと】

- ・ 現在困っていることやこうなったら良いと思うことを現場職員からヒアリングやアンケートで聴き取る。
- ・ それをもとに課長、主任、リーダーで話し合い、課題を特定した。

#### 【介護老人福祉施設の課題】

- ・ 認知症の方や転倒リスクの高い方、医療的配慮の高い方、ターミナル期の方への見守り等心的身体的負担が高い。
- ・ 居室内での怪我の原因が特定できず適切な対策が立てられない。
- ・ 排泄のタイミングが合わず睡眠の妨げや全更衣等の不快や負担が大きい。
- ・ 大きな体格の方や拘縮の強い方が多く、体位交換の負担が大きい。
- ・ PHSのみでは情報伝達が効率的でない。

#### 【小規模多機能型居宅介護/認知症対応型共同生活介護の課題】

- ・ 記録に要する一連の作業に時間がかかる。重複した記録が多く、手間もかかり転記ミスも起こる。情報共有しづらい。
- ・ 外国人スタッフにとっては手書き文字は読みにくい。また、日本語で正確に記録することは難しい。



## 実行計画を立てよう①

### 課題に対する目標設定

#### 【介護老人福祉施設】

1. 夜間見守りのための定期巡視をなくし、職員の身体的・心理的負担の軽減する。更に得られた時間を活用し、より必要なご利用者様に手厚いケアを提供。
2. 事故を未然に防ぐ、もしくは起きてしまった事故を原因分析し、適切かつ効果的なケアを提供することで居室での事故を減らす。
3. 睡眠サイクルと排泄サイクルを把握し、自立支援・個別ケアを充実させる。
4. 重度化及び体格のよい利用者の褥瘡を予防し、職員の身体的負担の軽減を図る。

#### 【小規模多機能型居宅介護/認知症対応型共同生活介護】

1. 記録時間を削減し転記ミスをなくし、作業効率化を図り、直接ケア時間を増やす。

### 介護テクノロジーの選定(類似機器調査)

#### 【最初の記録ソフト導入の際に実施したこと】

- ・ カタログやインターネット、研究大会等の資料を調べ、課題解決につながり、将来的に構築したいシステムを実現できる機器(メーカー)を数社選定
- ・ メーカー担当者による説明会開催
- ・ 導入している事業所の施設見学(メーカー担当者を通して依頼)
- ・ プロジェクト発足
- ・ 現場スタッフへのデモンストレーション実施
- ・ 3社比較(機能・コスト・操作性・拡張性・メンテナンス等)
- ・ 現場スタッフの意見聴取

※実際に使用する現場スタッフの意見を尊重し機器を選定しました。特に見守り機器は台数や種類等の構成を含め、機器選定を現場スタッフに任せました。

### 機器導入環境の検討

機器の導入にあたり、建屋躯体の構造上の問題から費用面で無線LANによる全機器接続を余儀なくされました。各メーカー担当者からは無線LANによる全機器接続は実績がないとのことでしたが、センサー・カメラ111台、インカム10台、介護記録入力端末(ナースコール受信兼用)21台が実可動しており、柔軟な機器選定の前例として大きな成果となりました。ただし、音声通話や2.4GHz帯のみ対応の機器がある場合はSSID構築時に考慮が必要となります。



## 実行計画を立てよう②

### 評価指標、評価方法、評価者、評価頻度等の設定

介護テクノロジーの導入による、利用者に対するケアの質の向上と、職員の身体的・心理的負担の軽減の効果を評価するため、以下のとおり設定。

#### 【介護老人福祉施設】

評価指標	評価方法	調査対象者	評価頻度
夜勤帯訪室回数及び訪室時間	導入前と導入後の夜勤帯での訪室回数及び訪室時間の比較	見守り機器を用いたケアを行った夜勤者	機器導入前と導入後(概ね3カ月後程度)、その後は1年に1回
居室での転倒転落事故件数	導入前と導入後の居室での転倒転落件数の比較	見守り機器を用いたケアを行った職員	
情報共有・応援要請に要する時間	導入前と導入後の1日の情報共有及び応援要請にかかる時間の比較	インカムを使用した職員	
トイレでの排泄支援者の人数及び使用オムツ(パット)の削減	導入前と導入後のトイレ案内者の人数比較及びオムツ(パット)の使用量(数と大きさ)の比較	排泄支援機器を使用した利用者	
職員の身体的・心理的負担の軽減	導入後職員アンケートを実施し、導入前と比べ負担がどうなったか評価する	介護テクノロジー機器を使用した職員	

#### 【小規模多機能型居宅介護/認知症対応型共同生活介護】

評価指標	評価方法	調査対象者	評価頻度
記録時間と外国人スタッフの介護記録教育に要する時間	導入前と導入後の1日の記録時間及び外国人スタッフの介護記録教育に要する時間の比較	記録システムを用いた職員	機器導入前と導入後(概ね3カ月後程度)、その後は1年に1回
職員の身体的・心理的負担の軽減	導入後職員アンケートを実施し、導入前と比べ負担がどうなったか評価する	介護テクノロジー機器を使用した職員	

### 機器導入に伴うオペレーションの見直し

- 各事業所で機器ごとに担当者を(主任・リーダー)を選定。
- 導入スケジュールを作成し、進捗管理を実施。
- メーカー担当者から機器取り扱い方法の説明を受ける。
- 機器担当者と事務課長で導入後のオペレーションを確認しながら設置場所及び設置方法を決定
- 機器担当者が導入後のオペレーション(業務手順)見直し案作成。
- デモ機を用いて、オペレーション再確認。再度見直し。
- 機器担当者が機器使用方法及びオペレーション変更内容を機器を使用するスタッフへ説明
- 機器導入後、実際に使用しながらスタッフの声を聴いて、随時見直し。





## 実行計画を立てよう③

### 機器の利活用状況の検討

機器の特性を確認の上、施設の状況から、以下のような利活用状況の検討を実施。

#### 【介護老人福祉施設】

機器の種類	利用対象者	利用対象者の割合	機器使用者	機器利用頻度
見守り機器(カメラ)	60名	100%	職員	常時
見守り機器(センサー)	40名	100%	職員	常時
全自動体位交換器(マットレス)	5名	10%	職員	常時
排泄予測支援機器	34名	85%	職員	常時
インカム			職員	常時

#### 【小規模多機能型居宅介護/認知症対応型共同生活介護】

機器の種類	利用対象者	利用対象者の割合	機器使用者	機器利用頻度
介護ソフト	全員	100%	職員	常時
タブレット端末	全員	100%	職員	常時

### 機器導入に伴う職員の研修計画

- ・ 介護テクノロジー導入決定後、研修会で職員に改善計画を説明
- ・ 機器導入時、メーカー担当者から各事業所責任者及び機器担当者及び事務担当者へ説明
- ・ 各事業所責任者及び機器担当者は導入目的・使用方法・注意事項を機器を使用するスタッフへ説明
- ・ 操作方法及びオペレーションを評価表を用いて全員できるようになるまで教育
- ・ 生産性向上推進委員会で進捗や評価結果、効果について情報を共有し、効果的な活用方法を検討する。
- ・ 必要に応じて生産性向上及び介護テクノロジー活用に関する外部研修を受講。推進委員会で情報共有及び伝達講習を実施。各事業所で実践に活かす。



職員研修の様子



## ご利用者の安心安全と職員の負担軽減を実現！ ～ 介護テクノロジー導入 ～

### 事業者概要

法人名：社会福祉法人邦知会  
主たる施設所在地：桐生市



施設・事業所名	サービス種別	利用者数	従業員数
ユートピア広沢	介護老人福祉施設 (短期入所生活介護)	40 (20)	18.0 (7.5)
ユートピア広沢	地域密着型介護老人福祉施設入所 者生活介護	20	9
リバーサイド広沢	特定施設入居者生活介護	15	6

### 介護テクノロジー導入のきっかけ

今後、介護人材の確保が一層困難になることが予測される中、法人として職員の負担軽減と業務効率化を図る必要性を強く感じていました。

これまで人が行っていた業務をテクノロジーで置き換えることで、持続可能な介護サービスの提供体制を構築するとともに、業務プロセスの見直しを通じて、介護現場全体の生産性向上を目指す取り組みを進めなくてはならないと考えております。



服部  
施設長



担当者  
中村相談員

### 目標と課題

#### 【目標】職員の負担軽減とケアの質の向上

#### 【課題】

- ・職員の身体的・心理的負担が大きい
- ・定期巡視が利用者の安眠を妨げている
- ・記録業務に要する時間が長い
- ・事業所内の情報共有が非効率



## 導入機器等

導入機器の種別	導入機器（製品名/メーカー）
見守りセンサー	aams/バイオシルバー aams連携ネットワークカメラ/バイオシルバー
記録ソフト	ワイズマンシステムSP すぐろくtablet/株式会社ワイズマン



見守りセンサー



記録ソフト



ナースコール

## 取組のポイント

### 介護テクノロジー導入のプロセス

1. 課題を明確にする
  - 施設のどの業務が負担になっているのか、職員の意見を聞いて整理する。
  - どの業務をテクノロジーで置き換えられるかを考える。
2. 既存のシステムと連携できる機器を選ぶ
  - すでに使っている記録システムと、見守りセンサーやナースコールをつなげる。
  - できるだけ一つのシステムで管理できるようにする。
3. ネットワーク環境を整える
  - 通信が途切れないように、安定したネットワークを構築する。
4. 操作しやすい機器を選ぶ
  - タブレットやスマートフォンを使い、現場で簡単に入力できるようにする。
  - 職員がすぐに慣れ、負担が増えない機器を選ぶ。
5. 事前に試験導入を行う
  - 実際に使ってみて、不便な点や改善点を確認する。
  - 現場の声を反映しながら、本格導入の前に調整する。
6. 導入後の効果を確認し、運用を改善する
  - 記録時間の短縮や業務負担の軽減など、効果を測定する。
  - 必要に応じて設定や運用方法を見直し、さらに使いやすくする。

## 効果

現在効果検証中のため、最終報告時に掲載します。



## 改善活動の準備をしよう

### 介護テクノロジー導入・評価に必要な会議体の設置

法人全体で介護テクノロジーを進めていく体制をつくる

#### ◆介護テクノロジー導入検討時

法人内各施設から選抜されたメンバーによるICT化推進チームを設置。  
月1回程度の会議にて運営。

#### ◆介護テクノロジー導入時

生産性向上委員会を設置。法人委員会（ICT化推進チーム）と施設委員会を連動させる形で運営。  
施設委員会・管理者、部署責任者、介護職員、看護職員、介護支援専門員

## 現場の課題を見える化しよう

### ケアの改善に向けた課題の特定

#### 【課題の特定のために実施したこと】

- ◆ 職員の業務負担や非効率な業務を洗い出すため、3M（ムリ・ムダ・ムラ）シートを活用。
- ◆ 実際の業務フローを分析し、課題を具体化。

#### 【コンサルタントの活用について】

介護テクノロジー導入検討時にコンサルタントを活用

- ◆ 月1回の定例会議
- ◆ 介護テクノロジー導入方法の相談
- ◆ 課題抽出シートの作成やその結果の分析、課題の見える化

#### 【施設の課題】

- ◆ 定期巡視時に利用者を起こしてしまい、睡眠の質低下に繋がっている。
- ◆ 介護職員が不足しているため、一人ひとりの利用者に対し十分な目が行き届かず、利用者への急な体調変化等に気づくのが遅れてしまう。
- ◆ 施設内のWi-Fi電波強度が弱く、電波が途切れてしまう。
- ◆ 記録をするためにパソコンがあるとこまで戻らなくてはならない。



## 実行計画を立てよう①

### 課題に対する目標設定

1. 見守り機器を導入することにより、定期巡視の回数を減らし、利用者の睡眠の質向上と職員の身体的・精神的負担の軽減を図る。
2. 利用者の急な体調変化を早期発見し、適切なケアを提供することで、安全で安心な生活支援につなげる。
3. 転倒や転落の兆候にいち早く気づき、安全な生活環境を実現する。
4. タイムリーな記録入力・情報共有ができる環境を整備することで、事務作業の効率化につなげる。
5. 利用者の生活リズムを把握し、適切なタイミングで声かけや援助を行う。

### 介護テクノロジーの選定(類似機器調査)

機器選定にあたり、以下の基準を設定。

- ◆ 既存の記録システムと連携できること
- ◆ 見守りセンサー・ナースコールと統合可能であること
- ◆ できるだけ一つのシステムで管理できること

以下の手順で選定をすすめる。

1. 記録システム担当者に、連携可能な機器の種類や連携内容を確認する。
2. 福祉機器展での見学や、メーカー担当者からの説明を受け、機器の特徴を把握する。
3. デモ利用が可能な機器は実際に試し、操作性や導入効果を検証する。
4. 試験的に数台購入し運用しながら、導入の適否を判断する。



スマホで状況確認

### 機器導入環境の検討

実施した工事 : Wi-Fi設備工事、見守り機器全床設置、ナースコール・スマホ連動  
<機器導入環境のポイント>

1. **Wi-Fi環境の事前調査**  
建物の構造や間取りにより電波が届きにくいエリアが発生するため、事前に電波強度を測定し、アクセスポイントの最適な場所と数を確認すること。
2. **既存システムとの連携可能性の確認**  
ナースコールや記録ソフト等との連携の可否及び追加コストについて確認すること。
3. **全体像を見据えた計画**  
部分的な導入では効果が限定的になる可能性があるため、全体像を明確にし、計画的に進めること。



## 実行計画を立てよう②

### 評価指標、評価方法、評価者、評価頻度等の設定

介護テクノロジーの導入による、利用者に対するケアの質の向上と、職員の身体的・心理的負担の軽減の効果を評価するため、以下のとおり設定。

評価指標	評価方法	調査対象者	評価頻度
巡視・移動時間	職員向けタイムスタディ調査を実施 ・回答方法: 自記式 ・調査実施の夜勤帯	見守り機器を用いたケアを行った職員	機器導入前、 機器導入後、 その後は1年に1回
職員の心理的負担感	職員向けアンケート調査を実施 ・回答方法: 自記式	見守り機器を用いたケアを行った職員	
見守り機器の導入で、夜勤職員1人あたりの歩く歩数	歩数調査を実施 ・回答方法: 万歩計アプリ ・調査実施の時間帯: 21時30分～翌6時30分まで	見守り機器を用いたケアを行った職員	
事故繰り返す頻度件数	職員向けアンケート調査を実施 ・回答方法: 自記式 ・参考資料: 事故報告書	見守り機器を用いたケアを行った職員	

### 機器導入に伴うオペレーションの見直し

#### <主導者・検討メンバー>

生産性向上委員会が主導し、法人委員会(旧ICT化推進チーム)と施設委員会(管理者、部署責任者、介護職員、看護職員、介護支援専門員)が連携して実施

#### <見直しのタイミング>

試験導入時 → 課題を洗い出し本格導入後 → 定期的に調整

#### <確認した資料・情報>

機器仕様書・導入マニュアル・他施設の導入事例・Wi-Fi環境調査結果

#### <メーカー・外部の助言>

メーカーサポート及びメーカーによる職員研修、記録システム・ナースコールとの連携確認、操作性やサポート体制の確認、外部研修や他施設の事例を参考に運用改善



施設長から今後の方向性について研修を受けている様子

※モデル事業者の詳細なオペレーションの見直し内容を確認したい場合は、P3記載の連絡先へご連絡ください。



## 実行計画を立てよう③

### 機器の利活用状況の検討

機器の特性を確認の上、施設の状況から、以下のような利活用状況の検討を実施。

機器の種類	利用対象者	利用対象者の割合	機器使用者	機器利用頻度
見守り機器 (センサー)	特養:40床 地特:20床 ショート:20床 特定ケア:15床	全床 100%	職員	毎日
見守り機器 (カメラ)	動きがある利用者	必要利用者 50台導入	職員	随時
スマホ	ナースコール連携 記録ソフト連携 見守り機器連携 内外線機能 職員コミュニケーション ツール		職員	毎日

### 導入のポイント

オペレーションの変更による職員の負担等を鑑み、一度に複数の機器を導入するのではなく、以下の通り順次導入。

平成14年 介護記録システム(ワイズマン)

令和元年 介護記録ソフト(すぐろくTablet/ワイズマン)

令和3年 見守りセンサー(aams/バイオシルバー)

令和7年 記録用スマートフォン(wish4/SHARP)

### 機器導入に伴う職員の研修計画

- 導入機器の初心者向けの研修  
導入前1回、以後職員入職時(担当:委員の職員)
- 導入機器のより効果的な活用方法を共有する会議 年1回
- 導入機器のヒヤリハット・有効活用事例を共有する会議 年1回



業者から操作説明研修を受けている様子



## 円滑な情報共有が生む、より良い介護。

### 事業者概要

法人名：社会福祉法人ほたか会  
主たる施設所在地：前橋市



施設・事業所名	サービス種別	利用者数	従業員数
グランポルト前橋	特定施設入居者生活介護	78	19
	訪問介護		14
	定期巡回・随時対応型訪問看護		14
	夜間対応型訪問介護		11
	通所介護	70	13
介護老人保健施設青梨子荘居宅介護支援事業所	居宅介護支援事業所		9
青梨子訪問看護ステーション	訪問看護		10

### 介護テクノロジー導入のきっかけ

職員の負担を軽減し、働きやすい職場環境を作ることで、職員定着率を向上させ、経験豊富な職員が定着することで、より質の高い介護サービス提供したいと考えておりました。

また、多職種連携で業務を行うため、情報を効果的に共有することで、チームとしての質を高めたいと考え、介護テクノロジーを導入しました。



山口支配人

### 目標と課題

**【目標】情報共有による職員の負担軽減とケアの質の向上**

**【課題】**

- ・記録業務に要する時間が長い
- ・事業所内の情報共有が非効率
- ・他事業所との情報共有が非効率
- ・文書の量が多い
- ・超過勤務が多い
- ・職員の身体的・心理的負担が大きい



## 導入機器等

### 【特定施設入居者生活介護】

導入機器の種別 導入機器（製品名/メーカー）

見守りセンサー 眠りスキャン/パラマウントベッド



### 【全事業所】

導入機器の種別 導入予定機器（製品名/メーカー）

介護ソフト ほのぼの/NDソフトウェア

タブレット端末 iPad/Apple

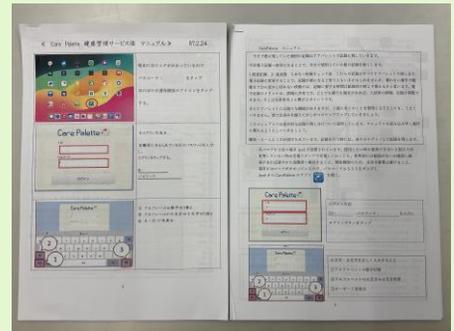
ナースコール設備 ケアコム



## 取組のポイント

介護ソフトを電子化することで、扱いが苦手な職員もいる。年齢や得て不得手関係なく誰でも一律に使用できるよう写真を添付するなど、具体的なマニュアルの作成を心がけた。

多職種連携で支援を行っているため、いつでも情報が確認できるよう一つのデバイスに利用者の様々な情報を集約できるよう努めた。



マニュアルの作成

## 効果

現在効果検証中のため、最終報告時に掲載します。



## 改善活動の準備をしよう

### 介護テクノロジー導入・評価に必要な会議体の設置

#### 生産性向上委員会を設置

##### 【実施したこと】

管理者と各所属長で構成する委員会を設置し、複数サービスを利用する利用者の情報共有について検討、課題解決のために必要な機器を選定。

経過については全体会議で職員へ周知。

##### 【メンバー】

管理者・各所属長

##### 【開催頻度】

月／1回

## 現場の課題を見える化しよう

### ケアの改善に向けた課題の特定

#### 【課題の特定のために実施したこと】

- ・ 生産性向上委員会の設置
- ・ 幹部職員でのミーティング

#### 【特定施設入居者生活介護の課題】

- ・ 超過勤務
- ・ 新入職員が多いことで経験不足からのサービスの質の低下
- ・ ご入居者様の夜間の安眠

#### 【複数事業所間の情報共有に関する課題】

- ・ 複数の事業所との情報共有をデータ連携で行えず、時間がかかっている。



## 実行計画を立てよう①

### 課題に対する目標設定

#### 【特定施設入居者生活介護】

センサーや記録システム(ナースコールの更新)を導入することによって、ご入居者の睡眠や排泄状況の確認が出来、個別プランでの支援(巡視回数、排泄時間の見直し等)で安眠につなげる。

#### 【複数事業所間の情報共有】

情報を効果的に共有することによって、職員の負担(利用者全員の情報管理が出来ることによる)を軽減されることで、ケアの質を高めていく。

### 介護テクノロジーの選定(類似機器調査)

- 法人内他事業所ですで見守りセンサー、介護ソフト、タブレットが導入されている。
- 他事業所へ研修に行き、使用方法、効果の確認を行ない選定。

### 機器導入環境の検討

- 見守りセンサーを導入することでのWiFi環境の確認と環境の拡大。
- 介護ソフトにおいては、介護計画、実行記録、請求まで手掛けられるソフトを選択。
- ナースコールにおいては、履歴が確認できるため、事故や苦情発生時の根拠資料とすることができる。

### 評価指標、評価方法、評価者、評価頻度等の設定

介護テクノロジーの導入による、利用者に対するケアの質の向上と、職員の身体的・心理的負担の軽減の効果を評価するため、以下のとおり設定。

評価指標	評価方法	調査対象者	評価頻度
夜間巡視・移動時間を現状の2/3程度にする	職員へのアンケート・聞き取り。休憩時間及び時間外勤務等の状況把握。	夜勤従事職員	
データの連携機能により、業務効率の向上	職員向けアンケート・聞き取り調査の実施	全職員	機器導入前、機器導入後、その後は1年に1回
利用者のQOLの向上	利用者向けアンケート・聞き取り調査の実施	見守り機器を設置したご利用者	



## 実行計画を立てよう②

### 機器導入に伴うオペレーションの見直し

- 管理者を中心に幹部職員で見守りセンサーを導入することで得られる効果をもとに日課表の見直しを行う。
- 介護・看護記録をペーパーレス化するため、介護ソフトで入力した記録を日誌化できるようメーカーへ相談を行う。
- 既に見守りセンサー、介護ソフト、タブレットを運用している他事業所へ研修に行き日課表や、職員へのレクチャーシートの確認を行う。



※モデル事業者の詳細なオペレーションの見直し内容を確認したい場合は、P3記載の連絡先へご連絡ください。

### 機器導入に伴う職員の研修計画

- ナースコール設備及び見守りセンサーの説明。導入前1回、以後年2回
- 介護記録ソフト性能及び有効活用方法の説明。導入前1回、以後年2回